8

Collection of Songs for Primary Schools and Homes.

童謠唱歌名曲全集

田村虎藏·福井直秋·小松耕輔·共編

第四卷

東京 京文社 刊行

EDITION·KYOBUNSHA·TOKYO

昭和七年

E13720455 梅澤 敬一 2023/10/21 01:11:48

161. 秋夜懷友

懷しげに【♩=96】

犬童球溪 歌
ライトウン 曲

1. タナレ ノヲゴト トモニ カキナデ スミ
2. はしる のゆふべ てをと りかはし ゆく

ユクツキヲ メデシモイマハ ユメ
すゑまでも こよひのままと ちか

E13720455 梅澤 敬一 2023/10/21 01:11:48

犬童球溪歌
ライトウン曲

ト スギッッ トモマ タトホク ワレ
ひ しもの を そのと もいま は うみ

ノ ミヒトリ サビシ キマドニ カハ
や まとほき かなた のさと に なき

rit. a tempo

ラ ヌツキヲ ナガメ ゾアカス トワ
ゆ くかりを いかに かきける みそ

rit. a tempo

タ ルカリヨ オモヒヲハコベ
ら のつきよ おもかげうつせ

デ スミ
は し ゆく

ハ ユメ
と ちか

E13720455 梅澤 敬一 2023/10/21 01:11:48

その澄みわたる　瞳もて
ながめやしけん　秋の月。
三　いま江上に　霧晴れて
かなた三上の　山も見ゆ
あゝ王朝の　夢いづこ
帷帳に古き　香をしのぶ。

一五八　林子平

石原和三郎歌
田村虎蔵曲

一　我が日の本は　海の國
國の護りぞ　第一なると
筆を染めたる　三國通覽
心を込めたる　海國兵談
あゝ高し　先見の明。
二　時を得ざるぞ　是非もなき
一間のうちに　押し込められて
掟は破らぬ　忠肝義膽
心は隅なし　月日・地天
あゝ清し　國士の鑑。

一五九　配所の月

大桑みよ子歌
外國曲

一　はや瀬に流るゝ　みくづのごと
とゞめんよしなき　君がゆくへ
あはれ罪なくて　見る配所の月
くもらぬまことと　さゝげつくす
天拜山上　日ごとの拜。
二　うつゝにもあらず　いでし都
空しくへだつる　雪はいくへ
あはれ罪なくて　見る配所の月
かどの戸閉ぢて　そゞろしのぶ
清涼殿上　侍座の昔。

一六〇　壇の浦

眞田梅村歌
佐々木すぐる曲

一　元暦二年　暮の春
壇の浦邊の　浪風さわぎ
寄するは白旗　守るは赤旗
三千餘艘の　兵船亂れて
爭ひ爭ふ　阿修羅の巷
矢叫び空に　鳴りちがひ
鬨なす聲は　海にひゞく。
二　榮華の跡も　いまは夢
武運拙く　弓折れ矢盡き
強きは敵と　わたりて討たれ
弱きは海の　藻屑と消えて
一門ことごとく　あへなき最期
漂ふ衣は　波を染め
主なき船は　風に流る。

一六一　秋夜懷友

犬童球溪歌
ライトウン曲

一　手なれの小箏　共にかきなで
澄みゆく月を　めでしも今は
夢と過ぎつゝ　友また遠く
吾れのみひとり　淋しき窓に
變らぬ月を　眺めてあかす
とわたる雁よ　思ひを運べ。
二　端居の夕べ　手をとりかはし
行く末かけて　今宵のごとと
誓ひしものを　その友今は
海山遠き　かなたの里に
なきゆく雁を　いかにかきける
み空の月よ　俤うつせ。

一六二　瀑布

蕨村作歌
福井直秋曲

一　百のいかづちつとよみ
木の葉ことごと靡く
雲の中より落ちて
深く奈落に入る
ああ雄渾　ああ壯觀
苦しき暑さは
ほとりだに汚さず。
二　朝日谿間にさせば
玻璃の簾とかゝり
夕暉巖に照れば
虹霓の彩をぞ織る
ああ爽凉　ああ鮮艶
造化の藝術ぞ
限りなく奇しき。

一六三　遊獵

小學唱歌集

一　さながら山も　崩るばかりに
尾の上にとよむ　矢玉のひゞき
神てふ虎も　手どりにしつゝ
いさみにいさむ　益荒雄の徒。
二　葦毛の馬に　しづ鞍おきて
椄の眞弓　手にとりしばり
みかりたゝすは　益荒雄なれや
み獵たゝせる　その勇ましさ。

一六四　旅情

鳥居忱歌
グルック曲

一　夕雲迷ふ　遠の高嶺
顧みすれど　家路見えず
故郷たちて　今日は幾日。
二　繩手の伏家　此所ぞ宿り
竝木の松に　嵐冴えて
故郷めぐる　夢は破る。

一六五　雁

一柳芳風歌
ケルン曲

一　尾花が末に　秋は立ちて
衣手さむし　賤が伏屋
月かげかすかに　窓にさして
鐘の音靜けく　門にひゞく。
二　針の手とめて　立つは少女
とぼそによりて　仰ぐ彼方
秋霧眞白に　山をこめて
雁がね淋しく　空を渡る。

一六六　關の秋風

桑田春風歌
アプト曲

一　友と別れて　旅寢幾日ぞ
都の空を　ふりさけ見れば
夕雲遠く　山河隔つ
入日も寒しや　嗚呼關の秋風
うらさびし　そゞろに。
二　草に埋るゝ　路のほとりに
舊にし跡と　我が訪ひ寄れば
礎壞えて　蟲の音繁し
今はた身にしむ　嗚呼關の秋風
吹きかゝす　袂を。

一六七　古戰場

小學唱歌集

一　屍は朽ちて　骨となり
刃は折れて　霜むすぶ
今はた靡く　旗すゝき
皷の音か　松風か
二　人影見えず　風寒し。
蓬は枯れて　霜白し
命を捨てし　眞荒雄が
その名は千代も　朽ちせじな。

一六八　古戰場の夕べ

川路柳虹歌
ドイツ曲

一　夕日落ちて
ひろき野の果も　たそがれぬ
わづか殘る夕雲
紅き色うすれぬ。
二　おもふこゝの
荒れし草原に
敵味方　入り亂れて倒れし
かの日　戰ひの日。
三　み國のため
そびゆる巖の　きそひ立てる
高嶺の頂き　今ぞ近し
消えざる白雪　足に踏みて
險しき岨路　いざ登らむ。
二　仰げば澄みたる　高きみ空
白雲湧き來て　身をば包む
茜色なす　反映し
ふかい樹の間に　聞くは鈴
馬の蹄も　とぼとぼと
消えつとだえつ　鳴る鈴の
谷にみ山に　ちんからかん〳〵。
二　かへる杣人　曳く手綱
千代も朽ちせず　今かいまかと
君を待つらん　そのもみぢ葉。
二　ふるき都の　そのむかし
さくらかざして　大君の
遊びましけん　志賀の花ぞの花咲き
志賀の花ぞの花さき　今もにほふ
色香をそへて　笑めるすがたは
一　近江の湖の　夕霧に
見えかくれする　瀬田の橋
石山寺の　門くれば
秋は紅葉の　色に見ゆ。
二　紫式部　すまゐせし
「源氏」しるせし　こゝの窓

川路柳虹歌
永井幸次曲

E13720455 梅澤 敬一 2023/10/21 01:11:48

昭和七年一月廿一日印刷
昭和七年一月廿七日發行

◇豫約出版◇ 童謠唱歌名曲全集
第四卷・豫約價 金貳圓八拾錢

編纂者 東京市牛込區築土八幡町三一 田村虎藏
編纂者 東京市外長崎町荒井一八八四 福井直秋
編纂者 東京市外杉並町阿佐ヶ谷四八五 小松耕輔
發行者 東京市神田區淡路町二ノ二 鈴木芃
印刷者 東京市芝區金杉新濱町一二 單式印刷株式會社 代表者 和田助一

發行所 東京市神田區淡路町二ノ二 振替口座 東京 八二二六番 京文社 電話神田(25)三九〇番 三九二番

E13720455 梅澤 敬一 2023/10/21 01:11:48